日本防災士会　千葉県北部支部会報

日本防災士会　千葉北

第 27 号　2017 年 1 月 1 日発行

今　号　の　内　容

防災講習会・訓練

全市規模の総合防災訓練に参加　1

HUG の指導者を増やす取り組み　2

第 1 回法典フェア　2

手記

東北視察勉強会　青木　信夫　3

特集

防災のエース、起震車物語(上)　6

北部支部会員さん　紙上インタビュー

崎山　光江　さん　9

筒井　義臣　さん　10

北部支部の防災支援活動
(2016 年 9 月～11 月)　11

新会員紹介　12

小雨降る中で防災訓練が実施されました

全市規模の総合防災訓練に参加

香取市総合防災訓練

10 月 1 日(土)、香取市総合防災訓練が市内の 5 会場に分かれて行われました。日本防災士会本部が香取市より協力要請を受け、北部支部、技術支援チーム、BCN などが香取市本庁舎会場で、起震車による地震体験、初期消火訓練、手当搬送訓練、倒壊救出訓練などを行い、防災士などスタッフ 21 名が参加しました(小雨模様のため起震車の体験は取り止め)。

訓練は M7 の地震により市内全域が震度 6 強の地震に見舞われ、多数の建物倒壊、インフラ損壊、人的被害が発生、との想定で初動対応を中心に行われました。午前 8 時半に全市民を対象としたシェイクアウト訓練からスタートし、5 つに分けられた地区ごとに指定の自主避難場所に集合して、安否と被害状況の確認が行われました。その後 5 ヵ所の訓練会場に移動し、所定のプログラムに従って訓練を行いました。本庁舎会場では、救護所設置・トリアージ・給水・ボランティアセンター設置・応急手当・倒壊救出・手当搬送・初期消火・高所救出・(ドローンによる)被害状況調査・情報収集・消火放水・炊き出し・救援物資搬送などの多角的な訓練が同時進行を交えながら整然と進められ正午に終了しました。

倒壊救出訓練（左）や応急手当訓練（右）にも、中学生などの若い人が積極的に参加

訓練の対象は市職員と自主防災組織メンバーですが、加えて一般市民、中学・高校生徒など約 500 名が訓練に参加しました。参加協力団体として日本防災士会、BCN をはじめ、国土交通省関東地方整備局、陸上自衛隊中央即応集団、地元警察署や消防団、県立佐原病院などの病院・医療関係団体、さらには千葉県立佐原高等学校、香取市立佐原中学校、香取市立府馬小学校の小中高校に至るまで、計 29 の関係諸団体が参加・協力しました。このような全市規模の総合防災訓練は香取市として今回が初めてでしたが、多角的によく企画された訓練となり特に中学生などの若い人たちが積極的に参加している姿が印象的でした。

++++++ HUG の指導者を増やす取り組み ++++++

袖ケ浦市災害対策コーディネーター養成講座

9 月 13 日(火)と 10 月 22 日(土)の 2 回にわたり、災害対策コーディネーター養成講座が袖ケ浦市総務部危機管理課の主催で行われ、この講座に北部支部が協力しました。本講座は HUG(避難所運営ゲーム)の指導者向けとして企画され、延べ 26 名の災害対策コーディネーターが延べ 6 時間余にわたり熱心に受講しました。

講座は HUG を単なるゲームとして体験するだけでなく、HUG を通して避難所を運営してゆく時に実際に起こりそうな状況を様々に考え、そのために事前に準備しておかなければならないことや留意しなければならないことなどを中心に掘り下げて行われました。深く実践的な内容の講座に、受講者からは「こうした講習が受けたかった」という声が上がり、講座終了後も熱心な討議の輪が広がりました。HUG が普及すれば、それだけ指導者も増やす必要があります。今後、このような講座がますます求められてくるものと思われます。

++++++ 第 1 回法典フェア ++++++

9 月 25 日(日)に、船橋市法典地区自治会連合会の主催で、第 1 回法典フェアが法典公民館で行われました。同連合会は 28 町会、約 14,000 世帯からなり、「古くから住んでいる人も新し

く越してきた人も皆が一体となって仲良く物事に取り組むこと」を大切なモットーとしており、来年には発足 50 周年を迎えます。

当日は、船橋市の松戸市長や色々な分野のリーダーをはじめ、老若男女約 800 名が一堂に会しました。各種委員会やサークルによる精魂こめた演技発表やフリーマーケット、展示などが、広い公民館と敷地をフルに使って賑やかに行われました。その中で北部支部は、BCN と共に防災部門に協力し、防災士などスタッフ 14 名により、家具転倒防止・災害用備蓄品・防災グッズなどの展示と説明、災害時に役立つロープワーク講習、起震車による震度 7 の模擬地震体験を行いました。

起震車による模擬地震体験（上）とロープワーク講習（下）

このような地域の催しは防災に特化したものではないため、来場者は防災に関心のある人ばかりではありませんが、より幅広い多くの人たちに防災について考えるきっかけを提供し、防災の裾野を広げることに繋がるので、意義のある催しであると考えられます。

++++++　東北視察勉強会　++++++

青木　信夫

宮城県女川中学校の生徒たちが「1000 年後のいのちを守る会」の活動を始めて 5 年、震災当時中学 1 年生であった彼らも高校 3 年生となりました。平成 28 年 6 月のある日、生徒たちと共に活動してきた女川中学校の阿部一彦先生から 8 月 11 日に行われる石碑完成披露式への招待状が届きました。この石碑は、「女川いのちの石碑」といって、命の尊さを 1,000 年後にまで伝えるために始めたものです。今回は、女川町内の 3 つの浜に建てられた第 10 基から 12 基の完成を通じて、地元の人たちとの絆を深めよりよい町づくりを進めよう、という企画です。

私たちは総勢 16 名で 8 月 10 日、女川町に入りました。宿舎はトレーラーハウスを使った大変快適なホテルでした。

「女川いのちの石碑」江の島の第 10 基(左上)、高白浜にある第 11 基(右上)、指浜の第 12 基(左)

8 月 11 日は快晴。最初の披露式は女川の中心部から最も遠い江の島です。午前 7 時、船で女川港を出発して約 30 分で江の島に到着。30 世帯の小さな島です。海辺の階段を登ると 10 基目の石碑が立派に完成していました。石碑には当時中学 1 年生だった生徒たちの心の叫びが詩(うた)として刻まれ、石碑が見つめる先には、美しいけれど何故か怖いほどの青い海が広がっていました。東京のボランティア学生グループによる歌から始まり、除幕、あいさつ、地元の人たちとの交流と続きました。

女川港に戻り、次の高白浜での除幕式に参加。美しい女川湾を望む場所に 11 基目の石碑が立ち、「忘れない この悲しみを 苦しさを」と刻まれていました。震災当時の様子をうかがいながら地元の人たちと交流を深めた後、対岸の指浜に移動し 12 基目の石碑に到着。眼前には湾を見下ろす絶景が広がっていました。「まっててね 今届けるよ おばあちゃん」の詩(うた)が胸を打ちます。届けるものが何なのかを想像します。女川町では人口の約 8%の命が津波で失われました。笑顔で集まった地元の人たちの中にも悲しみを背負っている人が少なくありませんでした。

石碑訪問を終えて女川駅に戻り、フューチャーセンターで高校生たちが考え抜いて完成させた「女川いのちの教科書」が初めて皆の前に披露されました。津波によって日常が崩壊してゆくという冒頭の書き出しが読む者を圧倒します。瓦礫はガレキではなく、人形やぬいぐるみであり、家具や布団であり宝物である、との記述が胸を打ちます。「絆」という言葉の真の意味など、教えられることの多い教科書でした。生徒たちが考えた 3 つの津波対策の背景にはいくつもの物語があります。それは悲しみを乗り越えてきた実体験から得た答えでした。生徒たちか

「女川いのちの教科書」完成披露式

旭が丘集会所にて

大川小学校

ら最初に感想を求められたのは私でした。びっくりしましたが、私が教科書の完成を心から待ち望んでいたことを生徒たちは知っていたのでしょう。私は「教科書の完成を心から待っていました。何年も待っていました。今、それを手に取ることが出来、本当に嬉しいです」と語りながらふっと見ると女生徒の 1 人が涙を流していました。言葉を交わしたことも無い生徒でしたが、彼女と心で繋がっている、分かり合えていると感じました。それが本当の絆なのだと感じた瞬間でした。披露式に呼んでいただいたお礼として私たちの寄せ書きを贈りました。「女川は今元気に暮らしています。3016 年 8 月 11 日」と記しました。1,000 年後です。

翌 8 月 12 日は快適だったトレーラーハウスを後にして、旭が丘集会所を訪ねました。2,015 年にも訪ねた場所です。仮設住宅に住むお年寄りたちが踊りで歓待してくれました。見事な司会のナレーションに乗って爆笑の連続で沢山の元気をいただきました。後日、踊りの中心で人気者の伊東さんというおばあさんから嬉しい知らせが届きました。念願であった公営住宅応募のくじが当たり 2,017 年 2 月に入居するとのこと。6 年にわたった仮設住宅の暮らしがようやく終わるとの知らせに心から安堵しました。

女川を後にして最後の訪問地である石巻市の大川小学校に到着。この日はいつもの強風も無く嘘のように穏やかな天候でした。静寂が何かを訴えかけているような空気の中で私たちは線香を手向けました。帰路、地元の人気店「ハマちゃんカフェ」で 2,015 年にもお会いした地元の中川さんと再会を果たし、近況をうかがうことが出来ました。東松島のホテルで夕食の後、皆でこの 2 日間の感動を語り合いましたが、もう次の訪問のプランに話

が弾んでいました。女川町の 21 の浜のすべてに石碑を完成させるには、高台の造成を待つ必要もありまだ時間がかかりますが、すべての石碑が完成した暁には石碑を一つ一つ清掃をして回ろうという意見も出ました。どんなに素晴らしい旅になるか今から胸が躍ります。

翌朝、太陽に光輝く東北の美しい青い海を瞼に焼きつけて、私たちは東京に向かいました。

防災のエース、起震車物語　（上）

北部支部への防災研修依頼の内容を見ると起震車(地震体験車)による地震体験の要望がここ数年顕著に増加している。平成 27 年 2 月以降の延べ出動回数は 65 回､平成 28 年度はすでに 30 回におよぶ(11 月 20 日現在)。本年 11 月 20 日に行われた印西市千葉ニュータウンイオンモールでの防災イベント「みんなの防災＋ソナエ」において、起震車体験累計者数がついに１万人を超え、記念すべき１万人目となった子供さんを迎えて、くす玉割りとくまモン防災リュックのプレゼントが行われた。このように起震車による地震体験は防災イベントでの集客力を高めている。

防災イベントの主役ともいうべき特殊車両である起震車は、非営利任意団体防災コミュニティネットワーク(以下､BCN)代表で北部支部の会員である青木信夫さんが個人で購入し､所有しているものである｡個人での購入は国内では青木さんが初めて(起震車機能等の詳細は BCN ホームページ http://b-c-n.jp/に掲載中)。

そこで今回は青木さんに「なぜ起震車を個人で購入するに至ったのか」を取材した。

～浦安での被災～

平成 23 年東北地方太平洋沖地震により、浦安市は過去に経験した事の無い「液状化被害」に見舞われた。浦安市在住の青木さんもスコップでの泥掻き作業に追われた。尋常でない泥の重さに、自分の肉体がいつまで耐えられるか不安にかられながら憤砂を道路脇に積み上げていた時､「どうぞ」と目の前に差し出されたのが紙コップ一杯の水だった。上・下水道が断水している中でいただいた水は大変貴重で、その温かい心遣いを感謝すると同時に、自分の住む地域が被災地であることをあらためて思い知らされた。

青木さんは自治会の役員経験があり自治会役員や班長のメールアドレスを持っていた。それを活用して生活に必要な情報をメールで配信したところ、口コミで評判が広がり、町内の 9 割以上の世帯でメール受信ができるようになった。この連絡体制はその後の復興期においても役

平成 23 年東北地方太平洋沖地震での浦安市での液状化

立ち、現在も、事故、事件、災害、防災訓練などの各種情報のネットワークとして、多くの人が登録し利用している。これらの体験を通して青木さんは防災に目を開き、活動を始めるようになった。

～東北での出会い～

震災から半年以上経過し浦安の復興が見えてきた頃、青木さんは東北に目を向けた。東北はいまだに先の見えない中で、毎日を生きるために目の前の問題を解決しなければならないせっぱ詰まった状況にあった。それを知った青木さんはピンポイントで、必要としている人に必要な物資を送る支援活動を開始した。そんな中、お礼の手紙が届いた。手紙の主は伊東さんというたいへん明るくチャーミングな年配のご婦人。写真も添えられていた。これをきっかけに伊東さんとの交流が始まり、宮城県女川町の仮設住宅へ何度も足を運んだ。伊東さんは明るいユーモアに溢れた人柄で周囲には笑いが絶えない。震災当日のつらい話でさえ、伊東さんの口を通すと笑いを誘い、青木さんの顔も思わずほころぶ。しかし、笑顔の中で青木さんは自分でも訳がわからない涙を胸に溢れさせていた。それは今ふり返ると「こんな素敵なひとがなぜこんなつらい目に遭わなければならないのか、なぜ仮設住宅に住まなければならないのか」という、単なる悲しみとは違う悔しさにも似た感情だった。「防災活動でこのような災害を防ぐことが出来たなら、多くの人達を助けることができたなら」と思うと自分の無力さが無性に悔しかった。

伊東さん（左）と青木さん（右）

～起震車を購入～

青木さんが防災活動に身を呈することを決意し防災士となったのが平成 23 年 9 月。青木さんの防災活動が更に加速した。防災訓練に起震車を呼ぶと参加者が倍増する、という話を聞いたことが大きな転機となった。防災意識を高めるためにこれほどインパクトのあるツールはないと思った。防災イベントで引っ張りダコのこの特殊車両、起震車は全国でも 100 台に満たず、それを利用するためにはほとんどの場合抽選になっていた。もし自分で保有すれば各所に出向くことができ、小さな町会から大きなイベントまで柔軟に機動力をもって対応できると思い購入を決意した。

起震の動力源はバッテリーで CO_2排出はゼロ。なによりも小さな車体でありながら 4 人が同時に体験でき、大型車と変わらない起震性能を持っていることが大きな魅力だった。「これしかない！」と青木さんの心は決まった。契約に至るまでには安全上など多くの課題があったが、販売会社は青木さんの熱意に触れ全力で対応してくれ、問題を一つずつクリアして契約が完了し平成 27 年 2 月、晴れて納車となった。

～起震車にこめた想い～

平成 23 年東北地方太平洋沖地震の実際の波形データーを元にした地震疑似体験は大きなインパクトがある。しかし起震車で体験をしただけでは直接防災に結びつかないことは勿論で、各人の防災行動に結びつくようなフォローが必要である。しかし、深刻になりがちな防災体験を起震車で楽しく笑いながらできることは素晴らしく、そこに人のつながりと共感の輪が生まれる。青木さんは女川町で伊東さんの話を聞いた時のあの痛切な思いを少しでも皆さんに伝えたいとの思いをこめて起震車を動かし続けている。

青木さんは次のように想いを語る。

「この起震車が軸となって私達の活動が増えることで、より多くの人たちに防災に目を開くきっかけを提供できます。きっかけがあれば人の心は防災・減災の行動に向かいます。このような良い流れが今できつつあると思います。」

♪　北部支部会員さん　紙上インタビュー　♫

崎山　光江(さきやま　みつえ)さん

Q．出身地と自己紹介をお願いします。

A．日本橋浜町生まれで深川や亀戸など下町で青春時代を送りましたのでお祭り、縁日、もんじゃ焼きの匂いなどには胸がワクワクします。

Q．キャリアを教えて下さい。

A．金融機関に勤めましたが料理の道に進みたくて程なく退社して栄養士養成学校で学び、老人ホームの管理栄養士を経て現在は自宅で食の大切さを伝える料理教室「エンジョイライフクッキング」を主催しています。また頼まれて各所の料理教室の講師を楽しくやっています。

Q．2011 年の東日本大震災の時にはどんな体験をしましたか？

A．野田市のある企業で生活習慣病予防の食事面接指導をしていました。突然の大きな揺れに、相手の男性は慌てて姿を消してしまいました。社員と一緒に駐車場に避難した後、パートの女性社員が苦労しながら車で柏駅まで送ってくれました。彼女は自分の帰路が大変でなかったかと思い、今もお会いして心からのお礼を申し上げたいです。非常の時の行動でその人の真価がわかるように思います。

Q.　防災士になったきっかけは？

A.　東日本大震災の状況を報道で見て自分も何かお手伝いしたいと強く思いました。栄養士として出来ることは何かと考えた末、「サバイバルクッキング」の講習会を始めました。そして防災について学ぶ必要性を感じ、防災士の資格を取りました。

Q．今、地域や職場などで何か防災活動に取り組んでいますか？

A．公民館や諸団体から「サバイバルクッキング」講座の講師依頼が多くなりました。講座では防災士としての知識を生かして地震発生のメカニズムや怖さを話して食料備蓄の必要性を感じてもらいます。そして実際に備蓄品を使った調理実習をします。被災状況下に似せた乏しい水や燃料を使っての調理実習を通し、私たちが普段いかに無駄の多い生活をしているか気付いてもらいます。物の備蓄と併せて無駄を省く心の備えも大切であることをこれからも伝えていきたいと思います。

Q．将来の夢はなんですか？

A．健康な体を養うのは栄養ですが、健康な心を養うのは 1)ストレスの緩和、2)よい人間関係、3)生きがい、の 3 要素であると思います。人生 100 歳時代に入りました。何歳になっても人生の予定を持ち、家庭、仕事、地域とかかわりながら明るく楽しく暮らしてゆくことが私の夢です。

♪　北部支部会員さん　紙上インタビュー　♫

筒井　義臣(つつい　ぎしん)さん

Q．出身地と自己紹介をお願いします。
A．越中富山の出身で東京に出て 60 年になります。
Q．キャリアを教えて下さい
A．通信会社の設備や CATV の保守・建設に携わりました。昭和 61 年の三原山噴火で溶岩流が町に迫る中、伊豆七島の通信途絶対策の指揮を執ったことが思い出です。
Q．特技、資格、得意なことは何ですか？
A．建設工事関係の各種資格を持っています。福岡市の道路陥没事故では一体どのような工事をしていたのか気になります。
Q．防災士になったきっかけは？
A．仕事を引退後、地域ボランティア活動をしてゆく上で必要と考え資格を取りました。
Q．今、地域や職場で何か防災活動に取り組んでいますか？
A．町会長になった機会に自主防災活動の活性化に取り組みました。大地震に備え「命を守る、生き延びる､火事を出さない」ための初動行動を根付かせることを活動の基本にしました。現在は防災部長として地域の小学校区内や連合町会で防災活動を行い、防災対策の普及に努めています。平成 27 年 3 月に総務省の「防災まちづくり大賞」では 24 時間セーフテイネットワークの構築に対して「防火・防災協会賞」をいただきました。
Q．身の回りの防災でやっていることは？
A．町会の防災対策を実践すると同時に我が家の備えも一応やっています。
Q．2011 年の東日本大震災の時にはどんな体験をしましたか？
A．自宅にいました。妻は病院の見舞いにゆくため都内の地下鉄の車中にあり、帰宅困難者となり翌日帰宅しました。震災の 3 年前に発足した町会の防災協力員体制にとって初の実践体験となり、町会長として十数名の防災協力員と共に安否確認に回り、町内で屋根の破損 13 軒、帰宅困難者多数の被害確認ができました。
Q．今、はまっていることは？
A．妻に防災道楽と言われるほどの防災漬けです。40 年ほど続けている詩吟は免許皆伝の一歩手前です。
Q．北部支部に望むことは？
A．新会員が増えていますので、今後もその希望 を取り入れた活動を期待しています。
Q．将来の夢は何ですか？
A．体が動く限り地域のために自主防災の普及に貢献することです。

北部支部の防災支援活動(2016 年 9 月～11 月)

この期間、北部支部は以下の防災行事に参加・協力しました。ご協力ありがとうございました。

9 月　4 日(日)	富岡エステート防災訓練(浦安市)
9 月 11 日(日)	インプレスト稲毛防災訓練(千葉市)
9 月 13 日(火)	袖ケ浦市災害対策コーディネーター養成講座
9 月 24 日(土)	成田市自主防災組織リーダー研修
9 月 25 日(日)	第 1 回法典フェア(船橋市)
10 月 1 日(土)	香取市総合防災訓練
10 月 8 日(土)、9 日(日)	放送大学幕張祭(千葉市)
10 月 12 日(水)	船橋市立湊中学校防災訓練
10 月 13 日(木)	千葉市国際交流協会防災セミナー
10 月 15 日(土)	長浦駅前自治連役員 HUG 講習(袖ケ浦市)
10 月 22 日(土)	袖ケ浦市災害対策コーディネーター養成講座(その 2)
10 月 23 日(日)	栄町地区別防災訓練(印旛郡) 印西市総合防災訓練
10 月 24 日(月)	明電舎災害時応急救護訓練(東京都品川区)
10 月 27 日(木)	JA きみつ女性部防災講習会(君津市)
10 月 30 日(日)	栄町地区別防災訓練(印旛郡) 京葉自動車教習所フェスタ 2016(千葉市)
11 月 12 日(土)	吹上苑町会防災講演(習志野市) 千葉災害ボランテイア連絡会 DIG 勉強会(千葉市)
11 月 18 日(金)	支えあい事業研修(東京都世田谷区)
11 月 19 日(土)	津田沼ローヤルコーポ防災訓練(習志野市)
11 月 20 日(日)	印西市印西西消防署千葉ニュータウンイオンモール防災訓練
11 月 22 日(火)	船橋市立宮本小学校高齢者体験
11 月 26 日(日)	エコ・ウオーク in 手賀(柏市立手賀中学校)
11 月 27 日(月)	野田市総合防災訓練

新会員の紹介

2016 年 1 月以降、以下の方々が北部支部の会員になられました。
北部支部の会員数は現在 71 名です(2016 年 12 月現在)。

川崎 隆克さん(印旛郡栄町)
五味川 文康さん(市原市)
西川 和也さん(市原市)
三浦 美恵子さん(市原市)
浅野 幸輝さん(いすみ市)
市村 光さん(白井市)
佐藤 修一さん(木更津市)
村岡 綾さん(千葉市)
榎本 和幸さん(四街道市)
高崎 勝利さん(佐倉市)
小椋 養一さん(野田市)
草薙 亮さん(東京都)
久保田 隆弘さん(東京都)
松元 田鶴子さん(船橋市)
末永 隆さん(八千代市)
野村 由美子さん(市原市)
木下 映実さん(八千代市)
葛西 章広さん(船橋市)
高橋 俊哉さん(佐倉市)
池島 晃さん(白井市)
宮城 和成さん(八千代市)
内山 丈寛さん(船橋市)
新井 勝美さん(船橋市)
木勢 さくらさん(千葉市)
江藤 誠さん(浦安市)

編集後記

北部支部の活動範囲は、昨年(2,016 年)8 月まで「千葉県葛南地区、東葛飾地区および千葉市」といった限定的なイメージでした。しかし、拡大しつつある北部支部の活動範囲の実状から、8 月の支部臨時総会で「原則千葉県とし、県外での活動を妨げない」(主旨)に会則が改められ、より柔軟な対応ができるようになりました。

その後は本号の「北部支部の防災支援活動」でもご確認いただけたとおり、千葉県内は船橋市、習志野市、千葉市などに加えて、野田市、柏市、成田市、香取市、袖ケ浦市、印旛郡、印西市、君津市、さらに県外へと、急速にその活動範囲を広げています。

これは広範囲からの北部支部への期待の高まりと、それに応えるための北部支部の積極的な活動の表れに他ならないでしょう。

我々広報担当一同は、今年もこのような支部活動の軌跡をしっかりと会報誌に記録し皆様にお伝えするため頑張りますので、ご協力ご指導をよろしくお願い申上げます。

広報担当： 黒田哲司 藤下 進 茂木 宏 平山優子 岩下裕二

事務局の連絡先： 飯岡孝(taka.iioka@gmail.com)
広報担当の連絡先：koho.chibakita.bosaisi@gmail.com